

福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年11月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

原子力防災訓練で 緊急時の対応力を確認しました

- 当所は、原子力事業者防災業務計画等に基づき緊急事態に対処する総合的な訓練（緊急時演習）を10月22日に実施し、所員約300名が参加しました。
- 訓練では、福島県沖で震度6強の地震が発生し、その後、大津波により燃料の冷却に必要な電源や機器の機能が喪失するといった過酷な事象を想定し、福島第一原子力発電所および本社と合同で実施しました。
- 訓練中は、プラントや現場の状況等が緊急時対策本部へ伝えられ、緊急時対策本部長（所長）指揮のもと、ガレキの撤去や電源車の出動等の指示で、各要員が迅速、的確に対応できることを確認しました。
また、本社との連携、情報共有等が適切に行われたことも確認しました。
- 今後、訓練の評価、改善を行い、緊急時の対応力をさらに高めていきます。



指示を出す緊急時対策本部長（所長）



ガレキ撤去に向けた重機の出動



電源確保に向けた電源車の操作



被ばく医療訓練（傷口の除染）

超高圧開閉所は発電所と 外部電源をつなぐ重要な設備です

- 超高圧開閉所は、発電した電気を発電所の外へ送り出すための設備ですが、プラントに必要な電気を、発電所外から受電する役割も担っています。現在は、この外部からの電気で安定した燃料の冷却を継続しています。
- この開閉所の中には、遮断器や断路器といった設備があり、一般の家庭というブレーカーの様なものです。家庭用コンセントの約5,000倍もの電圧を扱っているため、設備は、高い電圧に応じたとても大きなものになります。
- これらの設備は、建物の中に収められていることで、天候の影響を受けにくく、また海から吹き付ける風による塩害からも守られています。
- 当所では、日々のパトロールや定期的にメンテナンスをすることで、設備の健全性を維持・管理しています。



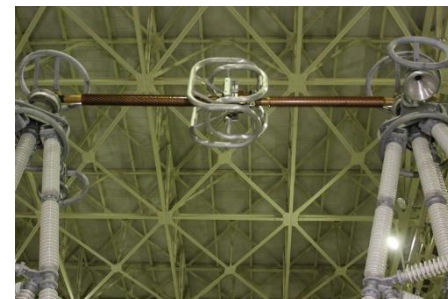
送電鉄塔



開閉所外観



遮断器



断路器

当直員による火災対応訓練を実施しました

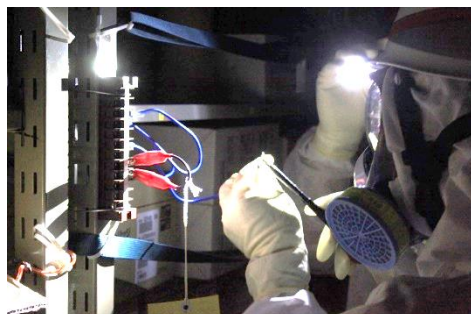
- 当所では、使用済燃料プールで安定した燃料の冷却を継続していますが、その状況を24時間、監視しているのが当直員です。当直員は、通常の業務（設備の点検や確認試験等）の他に火災を想定した訓練等も行っています。
- 10月に実施した火災対応訓練では、消防車や消火栓を使用し放水までの一連の動作を確認しました。また、今回は暗闇で作業を行う感覚を身をもって体感するため、全面マスクや防護服等を着用したうえで、ライトを照らしながら、端子台の配線等を行う訓練を取り入れました。この他にも呼吸器マスクや空気ポンペを現場で実際に装着して、使用方法を確認しました。
- 有事の際には、現場に一番近い当直員が迅速かつ的確に初期対応ができるよう、引き続き訓練に励み経験を積んでいきます。



ホースのつなぎ込み



消防車の取り扱い方法の確認



暗闇の中での配線作業

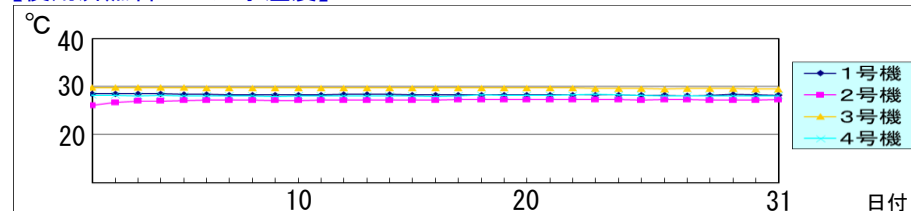


呼吸器マスク、空気ポンペの装着・使用方法の確認

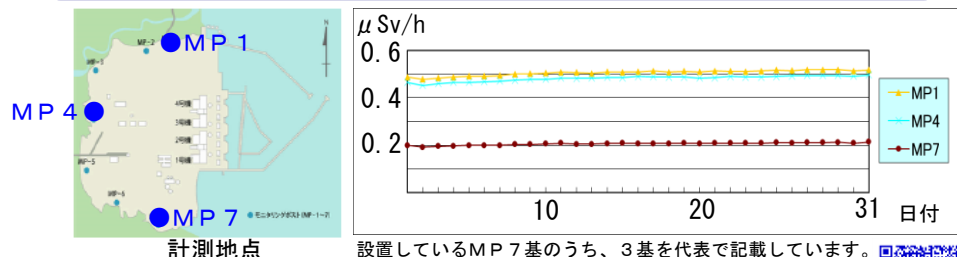
燃料の冷却状況（10月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト（MP）の計測状況（10月分）



さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



1号機で使用済燃料プールゲートを閉じる作業等を実施しています

- 当所では、1～4号機すべての原子炉内の燃料について、設備の維持管理の簡素化の観点から、使用済燃料プールへ移動し一括管理しています。
- 1号機では、11月10日より使用済燃料プールと原子炉ウエルの間のゲートを閉じ、通常の使用済燃料プールの状態に移行する作業を実施しています。
- 蒸気乾燥器と気水分離器については、11月13日までに天井クレーンで慎重に吊り上げながら原子炉内に移動しており、今後、これらの機器を仮置きしていたピットと、原子炉ウエルの水を抜く作業を進めていきます。
- なお、同様の作業は、3号機については9月30日に完了しており、2、4号機については、今後、順次行っていく予定です。



気水分離器の原子炉内移動